

「相談支援活動を通して」

地域支援課課長

吉田 丈夫

天高く馬肥ゆる秋、皆様にはますますご壮健のことと拝察いたします。

さて、今回は私が主に担当させて頂いております「相談支援事業所 生活支援センターしえく」に関して、ご紹介をさせて頂きたいと思っております。

しえくでは、生活のしづらさを抱えるご本人様やご家族様からの相談に応じ、助言・必要な情報提供（基本相談支援）、ご利用者の希望や要望を基に、福祉サービスを利用するためのサービス等利用計画を作成（計画相談支援）、定められた期間ごとにサービス利用計画の見直し（モニタリング）を行うなど、ご本人が望む（生き活きと過ごせる）活動や生活の実現に向けたお手伝いをさせて頂いております。相談者のご希望に合わせて散在している支援やサービス、社会資源を繋ぐ「要」の役割を果たしながら、継続的に利用・活用することができるよう調整し、ご本人を中心にご家族や支援関係者等の協力・協働による支援態勢の構築を図ることを目指して活動しています。

支援活動を通して、障がいのある人の生きづらさは、その障がいにあるのではなく、その人を取りまく環境にあることを学んできました。我々が住む町の中には障壁がたくさんあり、誰に対しても優しく・生きやすい環境ではありません。暮らしや活動は千差万別であり、厚生労働省の官僚が作った法律だけでは必要な手を差し伸べるのが難しい場合もあります。

既存の制度の形に相談者を当てはめていくだけではなく、法律の解釈や制度を熟知し、必要な福祉施策を利用できるように、相談者ご本人の代弁者となっていかねば、その人が望む暮らしの実現は図れない。障がいの有無に関わらず、「ひとりの人として、生活を営み、失敗も含めて生きることの醍醐味を味わって頂きたい」と考えています。その為に制度を変える。新しい制度を作っていく気概を持って活動をしていきたいと思えます。これは相談事業に限った話ではなく、以和貴会全事業所においてご利用者の支援を展開する中で個々の生活と向き合い、共に生活のあり方を考え、実践していく中で「本人が望む暮らし」の実践に向けた改革を押し進めていくことが使命であると考えております。

自閉症者への支援の取り組み

以和貴会には、「入所施設」、「グループホーム」などの居宅系事業から、児童・生徒を対象とした「放課後等デイサービス」、地域にお住いの成人された方々対象の「生活介護」や「就労関係」事業など、幅広く事業を展開しております。

ご利用いただいておりますご利用者には様々な障がいを持たれた方がいらっしゃいますが、約3年前より「自閉症」についての専門性の向上を図り、職員全体が共通認識をもって支援できるように研修に参加してきました。

また児童や生徒への支援現場では、川崎医療短期大学医療保育科の講師であります重松孝治氏に「TEACCH」を用いて、「自閉症」への支援に取り組んでおります。この技法は、不適切な行動に焦点をあてるというより、適切な技能を発達させることを強調し、自閉症の人自身の適応力を高めると同時に、自閉症の人にとって理解しやすい環境を整える「構造化」を実施しております。

「ぽこあぽこ」では、これまで「自閉症支援」について、幾度も特集を組みお伝えしてきましたが、「自閉症eサービス」において研修を受講した職員が中心となり、法人内で研修を開催し、法人内他事業所のパート職員までもが意欲的に学ぼうという形態にまで取り組みが浸透してきました。

今号では、教える側に立つ職員がかつて体験したことを思い直しながら、現在進行中の取り組みについて紹介をいたします。

約30年前、小学生である私は、学校の楽しみの一つとして給食がありました。通っていた小学校では3時限目が終わると、給食室前に献立が表示され、児童が楽しめる工夫をしていました。ある日、下級生のA君が、先生と一緒に献立を見に来ました。A君はクジラの竜田揚げを見た途端、突然大声をあげ、激しく地団太を踏み、横にいた私を2度蹴ってこられました。私は、意味がわからず、その場から立ち去る事しかできませんでした。

おそらく、このA君との出会いが、はじめて自閉症の方を意識した出会いであったと思います。この件は、私の中では大きな出来事で、30年近くたった今でも脳裏に焼き付いており、自閉症の方と関わる上での出発点であります。さて、A君はなぜ、献立をみてパニックになったのでしょうか？今考えれば、推測されることは以下のとおりです。

eサービスとは・・・特定非営利法人自閉症eサービスという大阪及び阪神地区を中心に活動している自閉症支援に携わる支援者たちの横断的ネットワーク。自閉症の人たちが普通に受け入れられる社会を目指し、専門家集団のおごりを排し、常に、ユーザー（当事者・家族と支援者）のニーズに応える姿勢を持ってコンサルテーションを行っております。

構造化とは・・・自閉症の方々に対し、周囲の環境の意味を分かりやすく整理し、時間や空間を理解してもらうため、ご本人の理解可能な方法で伝える合理的配慮を示す。

TEACCH Autism Programとは・・・自閉症等コミュニケーションに障害のある子供達やその家族への包括的対策プログラムであり、自閉症児・者が施設で生活するのではなく、それぞれの地域社会のなかで自立した生活を営むことができるように、そして不適切行動に焦点をあてるというより、適切な技能を発達させることを強調する。また自閉症の人自身の適応力を高めると同時に自閉症の人にとって理解しやすい環境を操作する（構造化）とゆう2つの方向からのアプローチの相互性を重視した取り組み。

クジラの竜田揚げが嫌いであった
 嫌いなメニューを残す手段がわからなかった（食べなければならない）
 事前の給食メニューの説明（言葉）では、嫌いなものか判別できなかった
 献立（具体物）を見て、突然、嫌いなメニューである事を知り、パニックになった

以上の点が考えられるのではないのでしょうか。私がこのような推測ができるようになったのは、実際に自閉症の方と関わった経験と特性部分の知識を学んだからだと思います。

支援者としての資質で求められるのは、知識・経験とご利用者とのかかわりを持つことが好きな事であると考えています。経験は支援を通して、自然と積み重なっていき、個々のご利用者への理解も深まります。それでは、具体的な知識はどこで学ぶのでしょうか？働きながら学ぶ機会は現実問題としては難しい部分です。

私は、今年度から開設されました「自閉症 e サービス@奈良」の実行委員として参画しています。ここでは、自閉症支援に特化した支援の専門性を高める場として、たくさんのご教授をしていただきます。この内容を法人内で共有化するのが私の使命です。

8月11日、ゆらくの里にて、夏季研修を実施しその講師を務めました。知識、専門性の蓄積から講義、演習の形式をとり、この研修を広く多くの職員に伝達する機会としました。実際に入所されているご利用者を事例に、自立課題の作成からPLAN(支援計画の立案) DO(支援の実施) SEE(支援の見直し)のサイクルを体験し、ご利用者の自立をサポートする視点を養う事を目的として行いました。

8月31日に法人職員対象に自閉症基礎講座を開講し、第1回目は「自閉症の特性」という題材で行い、考えている以上に多くのニーズがあり、法人各事業、正職員からパート職員まで、30名近い職員が集まりました。評価・構造化・コミュニケーションといった内容で、年間5回程度を予定しております。

基礎講座で学ぶことを職員間で共有化することは、利用者様の「その人らしく、その人なりの生活（暮らし）」を支える一つのツールになると考えています。

研修風景



第2回 「I W A K I 夏フェス」 開催



香芝市の吉田弘明市長にご挨拶をいただきました

8月1日16時30分より、「すみれの里」前の保健センター駐車場で『第2回I W A K I 夏フェス』を開催いたしました。

第2回夏フェスは、香芝市長吉田弘明様の御挨拶のあと、香芝天衝太鼓の皆さんによる力強い太鼓の演奏と共にスタートしました。催し物は、パフォーマ・レフトさんによる風船パフォーマンス、前年も参加して頂いたエイサー、フラダンス、最後は二上会様との盆踊りと、盛りだくさんのイベントをご用意しました。

模擬店出店に関しては、今開催は以和貴会と志を同じくし、障がい者支援を行ってられる他法人、青葉仁会様、在友会様、そして前年に引き続き、香芝市身体障害者福祉協会様にも御協力を仰ぎました。青葉仁会様はカレー、在友会様はたこ焼き、身障者協会様は焼きそばをはじめ様々な食べ物を出店してくださいました。たくさんのイベント・模擬店のおかげで法人各施設の利用者様にも地域の子どもたちにも楽しんで参加していただくことができました。

この時期は近隣でのお祭りが多く開催されており、一般の方の集客が思ったほどではないなど、改善すべき点も多く見つかった第2回I W A K I 夏フェスでした。来年は反省を生かし、失敗を恐れず、さらにパワーアップした夏フェスにしていきたいと思えます。



開催にあたり、ご協力くださった多くのボランティアの方々、協賛をいただきました個人、企業の皆様方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



第2回I W A K I 夏フェス 実行委員長 池原道生

ご協力いただきましたみなさん

香芝天衝太鼓

香芝天衝太鼓は、奈良県全域で活動している楽鼓の会グループの一つとして2004年に香芝市で結成。従来は香芝太鼓楽鼓の会として活動してきましたが、2009年結成5周年を迎えるにあたり、見ている方により楽しんでいただけるチーム、もっと魅せるチームになっていきたいというメンバーの思いから、チーム名を変更しました。天空を衝く音・撥(バチ)をイメージしてつけられた香芝天衝太鼓にチーム名を変更しました。



創作エイサー大和人(ならんちゅ)

創作エイサー大和人(ならんちゅ)は、知的障がいを持つ子供達とその保護者が中心となり活動するグループです。余暇の充実、体力向上、仲間と共に一つの物を創り上げてほしいとの親の願いから平成23年5月に結成しました。現在は奈良で活躍されているエイサーチーム「ちゅらら〜」の皆さんのご指導を受け、月1回ですが練習しています。結成してから多くの方々に私たちエイサーを見ていただく機会に恵まれました。障がいを持ちながらも輝ける場所、瞬間がステージにはあります。ステージという目標に向かってこれからもみんな楽しんでながら練習していきたいと思っています。



私たちのハラウは という意味です。ハワイ島ヒロの Kumu Hula Johnny Lum Ho が名づけてくださいました。ハワイの空に瞬くいちばん星のように、みんながまぶしいほどに輝くことができる。そんなフラスタイルを伝えていきたいと考えています。クムやアラカイを招いてワークショップを開催するほか、ハワイのスタジオ研修へ参加することもでき、常にハワイの雰囲気の中で最高のフラを学ぶことができます。



ご協力いただきました皆様

(株)ステップワン、フジエダ珈琲(株)、大和信用金庫、(株)タクサン、(株)井戸太蒲団店、南都銀行、船木二男、(株)フード・デリ、クボタ食品工業、ジュルネフーズ(株)、岡村プロテックス(株)、(株)ヤマイチテクノ、Ryo設計室
 ゆらくの里家族会、今人・我楽・すみれの里家族会「愛の会」、梅谷聡子
 井上京美、川本明広、中塚正人、若槻健司

(順不同 敬称略)

ほか匿名希望の方多数より協力いただきました。ありがとうございました。

グループホーム「のあ」一泊旅行 9月7日～8日

グループホーム「のあ」の一泊旅行（徳島・淡路島方面）を実施しました。あいにくの雨模様でしたが、車外での時間帯は殆ど傘をさすこともなく、ご利用者の皆さんも快適に過ごされていました。また、いつもの生活とは違ったホテルでの雰囲気や温泉・食事・買い物を楽しまれており、普段見ることのできない表情や笑顔もたくさん見ることができました。

旅行という非日常の空間をご利用者の皆さんと共に共有できるというのは、我々も心穏やかになります。そんな時間を今後も無理のない範囲で楽しく提供できたらと思います。



グループホームNo a「のあ」
サービス管理責任者 山林 昭

すみれの里 日帰旅行 10月5日



今年度はご利用者11名、スタッフ7名で「姫路セントラルパーク」へ行ってきました。動物に興味のある方が多く、行く前から楽しみにして頂いていました。

当日は天候にも恵まれ、絶好のお出かけ日和。「姫路セントラルパーク」は車のままサファリに入ることができ、動物たちを間近で見ることができ、ライオン、ゾウ、キリンなどをみなさん窓から一生懸命見ておられました。昼食後は、遊園地、ワンワンショー、お買い物などみなさん自由に過ごされました。

日帰りのため、滞在時間は3時間程度でしたが、みなさん思い思いの時間を過ごされ、楽しんで頂けたようです。普段とはまた違ったご利用者の笑顔を見る事ができ、スタッフも楽しませていただきました。今後も楽しい旅行の企画ができるようスタッフ一同取り組んで行きたいと思います。

すみれの里サービス管理責任者 八幡 晶香

我楽 一泊旅行 10月7日～8日

さばーとのご利用者13名・スタッフ6名、1泊2日で伊勢方面へ行ってきました。1日目は伊勢神宮(内宮)の散策など。おかげ横丁では珍しい日本酒・アーモンド・抹茶などのジェラートを購入されて美味しそうに召し上がられました。ホテルの懐石料理、大きなお風呂などで楽しいひと時を過ごしたあと、2日目の二見シーパラダイスではアシカとの触れ合いや、アザラシショー、イルカとのボール投げを楽しみました。

ご利用者の皆さんは、普段できないたくさんのことを体験され、たくさんの笑顔を見せられ、気分もリフレッシュされたご様子でした。大きな事故やトラブルもなく旅行を大いに楽しめました。



我楽さばーと事業担当支援員 田中 克明

新職員紹介

9月1日から、7名の新しい仲間が加わりました。



かわうち てるみ
川内 晃后
がら
(我楽さぼーと担当)パート

9月から勤務させていただいています。勉強と反省の毎日ですが、「笑顔」に元気をもらっています。よろしくお願ひします。



かたやま あやこ
片山 文子
がら
(我楽さぼーと担当)パート

9月から我楽で勤務させていただいています。初めての事ばかりで戸惑う毎日ですが、利用者様に喜んでいただけるよう頑張ります。よろしくお願ひします。



きのと まさよ
城ノ戸 昌代
(すみれの里)パート

9月からすみれの里で職員の皆さんや利用者様に支えてもらいながら、楽しく勤務させていただいています。一日一日を大切に、早く仕事を覚えられるように努力したいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。



なかつか しげお
中塚 茂夫
(すみれの里)パート

9月からお世話になっております。まだわからないことばかりで不安も多くありますが、早く慣れてしっかり皆さんのお手伝いができるよう、頑張りますので宜しくお願ひ致します。



たかぎ まさこ
高木 真佐子
(すみれの里)パート

9月から勤務させていただいております。わからない事ばかりで早く仕事を覚えて頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。



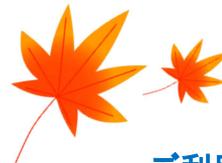
くわやま まき
桑山 真希
(今人)パート

福祉施設でお仕事させていただくのは初めてですので戸惑うことばかりですが、一日でも早く利用者の皆さんに打ち解けて頂けるよう頑張りたいと思ひています。



へんみ きよみ
邊見 清美
(そら)パート

9月より「そら」でお世話になっております。利用者さんと一緒に力を合わせて頑張っていきます。



ご利用者のために
精いっぱい頑張ります
どうぞよろしくお願ひします



ゆらくの里 居室エアコン更新工事実施

「ゆらくの里」の各居室に設置されていたエアコンは、役目を果たしてはいたものの、カバーが損傷するなど、安全面でも見た目の点でもよくない状態で使用してきました。

そこで、この度暖房設備(循環ポンプ)の故障を機会に更新することとなりました。電気等の燃料効率、健康面への改善だけでなく、見た目も大変良くなり、生活面の向上にもつながりました。

ゆらくの里は、数年後には開所30年を迎えます。今後、高齢化・重度化したご利用者が、安全で心地よい場所として暮らしていける設備(大改修)を検討していきます。



《賛助会員ありがとうございました》

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただき、ご利用者のために使用させていただきます。

ゆらくの里

中辻嘉子、寺本久子、増尾明広、泉中美鈴、中筋廣次、西風眞奈美、関信

地域事業

高司示現

業者ほか

原田フーズ、(株)ステップワン、(株)タクサン、(株)田原建設、阪本石油(株)、山口ガス商会 山口貴志

(順不同、敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

目に鮮やかな紅葉、金木犀の香り、草むらにすだく虫の音、そして美味しい秋の実り。私達のあらゆる感覚を満足させてくれる秋ですが、11月8日は立冬、暦の上ではもう冬です。本格的な寒さがやってくる前に大いに秋の名残を楽しみたいと思います。

発行：社会福祉法人 以和貴会
住所：〒639-0261 奈良県香芝市尼寺616番地
編集責任者：理事長 下村 卓司
Mail：office@yuraku.or.jp
発行：平成27年11月